

## 第 68 回神奈川県立座間谷戸山公園 現場研修会報告

—テーマ：樹林環境（雑木林）の順応的管理—

12月の研修会は、園内の樹林地の除伐作業と、皆伐予定地の事前調査（毎木調査）を行いました。



冬晴れに恵まれた12月の谷戸山公園。

ですが、夏季に管理作業をしている湿生生態園は、水面もデッキも凍っていました。



今回の研修会は、来月以降に行われる  
樹林の皆伐に向けての準備作業です。

始めに、講師から説明があります。



まずは、皆伐作業の際に切った木を運び出しやすいように、歩道近くまで間伐エリアを拡げます。ここが搬出路となります。



皆伐予定地内には、以前間伐材で作った落ち葉溜めがあります。ここにはカブトムシの幼虫が暮らしていますが、皆伐作業の際に倒れる木に潰されてしまう可能性があるため、次回の研修で幼虫だけ移動します。



今回は、幼虫の移動先になる落ち葉溜め作りを行いました。これで、午前の作業は終了です。



午後は、この照度計を使って照度の違いを測定しました。南方向を向き、水平に測ります。



樹林内との明るさを比較するため、まずは開けた場所で照度計を使って明るさを測りました。



皆伐予定地に移動し、樹林内の照度の測定もします。

落葉樹の下は葉を落としているため光が入り明るいですが、常緑樹の下は影になっています。このように樹林内の様々な場所の明るさの平均値を出すため、歩き回りながら複数の測点で測ります。



皆伐予定地では、光不足のため幹の途中から  
枝葉を出し光合成をしようとする「胸吹き」に頼る  
ハリギリも見られました。このことから、  
樹林内が暗かった事が分かります。



皆伐予定地は、今後の調査のためにビニールテープでエリア分けをし、  
エリアごとに樹木の位置を図面化できるよう、測量していきます。



最後に、皆伐予定地内の植生を調査しました。今後の皆伐で林床が明るくなることで、  
写真のような植物が成長する事ができ、多様な植生の樹林になることが期待できます。

写真は左からヤブコウジ、モミジイチゴ(実生)です。

これで今回の研修会は終了です。雑木林は、皆伐をし、萌芽更新することで、若返りが図れます。  
1月の研修会でも引き続き、皆伐前の準備作業や植生調査などを行う予定です。皆伐の経過を間  
近に見て、感じられる絶好の機会ですので、皆様奮ってご参加ください。